🌀 台風で学ぶ日本の地理

中学受験 社会／気候・農業・防災　　目安 25分

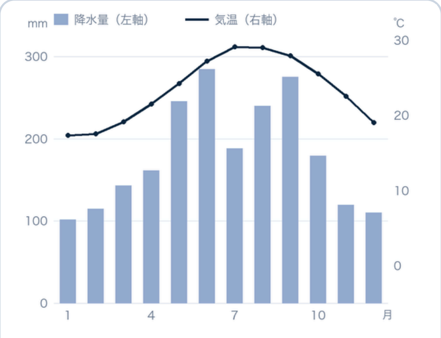
名前

1 台風の進路　地図に書きこもう

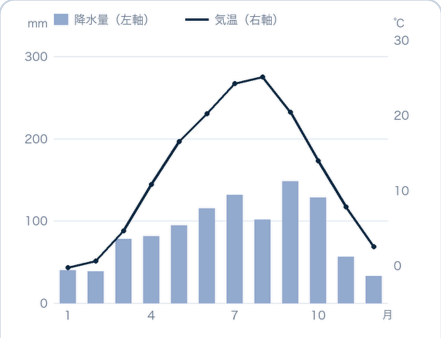
1. 夏から秋の台風のコースを、発生地点（●）から**矢印**で書きこみましょう。日本の南で北に向きを変え、日本付近では**北東**へ進みます。
2. 台風が通りやすい地方を3つ、地図の中で◯で囲みましょう。
3. 台風が日本の南で北へ、さらに北東へ向きを変えるのはなぜですか。次の2つの言葉を使って説明しましょう。

太平洋高気圧　**偏西風**

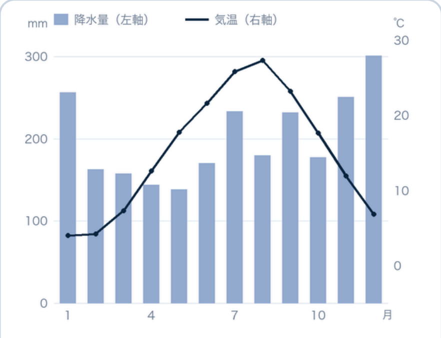
2 雨温図を読む　A・B・Cから選ぼう（気象庁平年値 1991〜2020年）



A



B



C

1. 台風の影響を強く受け、9月の降水量が多く、冬でも15℃を下回らない**那覇（沖縄）**はどれですか。(　　　)
2. 冬の降水量が最も多い**金沢（日本海側）**はどれですか。(　　　) また、そうなる理由を書きましょう。
3. 残った1つは**松本（内陸）**です。年間の降水量が少なく、冬の気温が低い理由を考えて書きましょう。

3 なぜ？を説明する 記述

1. 沖縄の伝統的な家には、屋根が低い・石垣で囲む・まわりに木を植えるなどの工夫があります。それはなぜですか。

2. 高知県や宮崎県では、稲をふつうより早く植えて8月ごろに収穫する**早期栽培**がさかんです。それはなぜですか。

3. 1959年の伊勢湾台風のあと、国は災害に備えるしくみを大きく変えました。どのようなことが行われましたか。

4. 青森県のりんご農家は、台風が来る前に「収穫を早める」「支柱やネットで木を守る」などの対策をします。台風がりんごにどんな被害を与えるからですか。

4 一問一答 用語の確認

1 熱帯低気圧のうち、最大風速が約17m毎秒以上になったものを何という。

2 台風の進路を北東に曲げる、日本の上空を西から東へふく風。

3 台風の低い気圧と強い風で海面が上がり、沿岸をおそう災害。

4 洪水や土砂災害の危険な場所や避難所を示した地図。

5 数十年に一度の重大な災害のおそれがあるときに気象庁が出す警報。

6 1959年、愛知・三重を中心に5000人以上の犠牲者を出した台風。

7 台風の中心にある、雲が少なく風の弱いところ。

8 台風の風がより強いのは、進行方向に向かって右側・左側のどちら側。

9 9月ごろ日本付近に停滞し、台風が近づくと大雨をもたらす前線。

10 雲の動きを宇宙から観測する、日本の気象衛星の名前。

解答と考え方

台風で学ぶ日本の地理

1 台風の進路

(1)(2) 書きこみの例は右の地図のとおり。フィリピンの東の海上で発生 → **沖縄・九州・四国**のあたりを通り → 本州の南岸に沿って北東へ。〇をつけるのは**沖縄・九州・四国**（中国地方・近畿でも可）。
(3) 台風は**太平洋高気圧**のふちに沿って時計回りに流されるため、日本の南で北へ向きを変える。さらに日本付近の上空では**偏西風**が西から東へふいているため、北東へ進路を変え、速度も速くなる。

2 雨温図

(1) **A＝那覇**。一年中気温が高く、いちばん寒い1月でも約17℃。5〜6月の梅雨と、台風の多い8〜9月に降水量が多い（9月は約275mm）。
(2) **C＝金沢**。冬に大陸から来る**北西の季節風**が日本海の上で水蒸気をふくみ、山地にぶつかって雪を降らせるため、12〜1月の降水量が多い。
(3) **B＝松本**。まわりを山に囲まれた**中央高地**にあり、季節風が山をこえるときに雨や雪を降らせてしまうため、一年を通して降水量が少ない。標高が高いので冬の気温も低い。

3 なぜ？を説明する

1. 台風の強い風から家を守るため。屋根を低くし、石垣やフクギなどの防風林で風をさえぎり、かわらをしっくいで固めて飛ばされないようにしている。
2. 台風が多くやってくる**9月より前に収穫を終える**ため。あたたかい気候をいかして苗を早く植えることができる。
3. **災害対策基本法（1961年）**が定められ、国・都道府県・市町村が協力して防災計画をつくるしくみができた。あわせて高潮を防ぐ堤防の整備も進められた。
4. 強風で収穫前の実が落ちたり（**落果**）、実がこすれて傷ついたり、木が倒れたりする被害が出るから。1991年の台風19号（りんご台風）では青森県で大きな被害が出た。

4 一問一答

1 台風 ／ 2 偏西風 ／ 3 高潮 ／ 4 ハザードマップ ／ 5 特別警報 ／ 6 伊勢湾台風 ／ 7 台風の目 ／ 8 右側（台風自身が進む速さが風の強さに加わるため。「危険半円」と呼ばれる） ／ 9 秋雨前線 ／ 10 ひまわり

おまけ：歴史とつなげる

鎌倉時代の**元寇**では、特に弘安の役（1281年）で暴風雨により元の船団が大きな被害を受けた（のちに「神風」と呼ばれた）。また、昭和の**三大台風**は室戸台風（1934年）・枕崎台風（1945年）・伊勢湾台風（1959年）。台風は地理だけでなく歴史にも登場する。